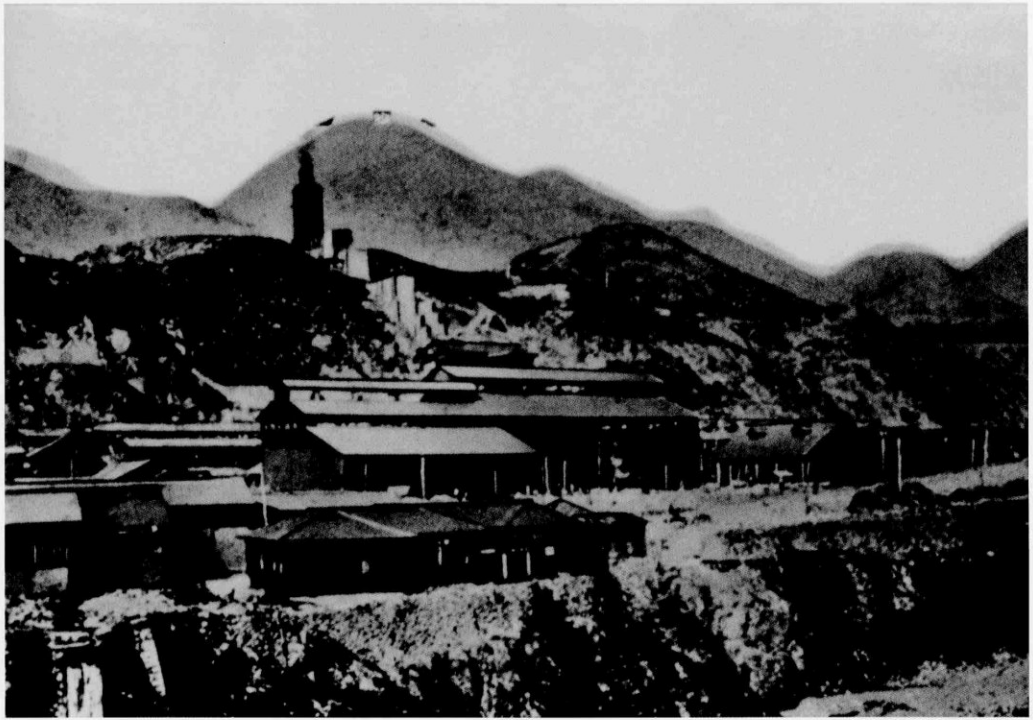

足尾銅山

足尾銅山は、栃木県上都賀郡足尾町にあり、銅の鉱脈が発見されたのは、慶長15年（1610）のことでした。その後、江戸時代を通じて銅を産出し、明治4年（1871）に民間に払い下げられたものを同10年（1877）古河市兵衛が買収、新しい鉱脈を開発し、削岩機・水力発電所・溶鉱炉等を設けるなど、設備の充実がはかられました。それにつれ、産銅量が増加し、同24年（1891）には、全国銅山中の1位を占めました。

しかし、産銅量が増加するにともない、足尾銅山から廃棄される鉱毒が銅山周囲に被害をもたらし始めました。銅製錬に使用する木材の伐採が進み、渡良瀬川が洪水を起こすようになると、鉱毒の被害は広がっていきました。銅山の操業はその後も続き、昭和48年（1973）閉山しました。

〈参考資料〉『群馬県史』通史編7 400～416頁